

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2376200172		
法人名	平成フードサプライ有限会社		
事業所名	グループホーム稲武の家 (1号館)		
所在地	愛知県豊田市黒田町一色310番地		
自己評価作成日	令和3年11月20日	評価結果市町村受理日	令和4年1月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2018_022_kanistrue&ijyosyoCd=2376200172-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室
所在地	愛知県新城市黒田字大岡132番地2
訪問調査日	令和3年12月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな環境もあり、ゆったりとした空気の中で疑似家族としての生活を送れている。勤続10年以上の職員が大半を占め、落ち着いた雰囲気も保たれている。入居者様のほとんどが稲武及び近辺に長年暮らされており地元で根付いた生活をしてもらっている。医師、理容師、ボランティアの方々等関係するほとんどの方々が入居者様が入居以前より関係を持たれており現在も貴重な地域の資源となっている。広々とした敷地内で、五平餅、朴葉寿司、からすみ作り等の郷土食を皆で作って食べたりと施設での暮らしが自宅での暮らしの延長となるように日々心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

息子や娘が学びや働き口を求めて地元から離れ、独居となって家族も離れた場所に住むという人もいる山間の地域では、職員が家族のような存在です。「夫婦は一緒にできやいかん」として妻の入所を心配して毎日硝子越しの面会に訪れている愛妻家の伴侶がいる一方で、「100歳まで頑張る」と奮起する99歳の利用者もいます。コロナ禍で外出できず、たこ焼きやかき氷のみの縮小夏祭りや、近くの食事処のお弁当にも飲んでくださり、鮎の塩焼き、朴葉寿司や五平餅などの稲武の郷土料理で昔話に花も咲き、家宅で暮らすような賑わいと和やかさがあり、コロナ禍の喧噪が此処ではうそのようです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム玄関口に理念を常に掲げ職員、利用者様、御家族様の目に留まるようにしている。介護を受けられる方の立場に立つという職務にあたる以前にまず持つべき人間としての視点を忘れる事の無い様に心掛けている。	例えば、駐車場に置く公用車を自分の車と誤認する利用者には「ガソリン入れてきたよ」「修理してもらいました」など本人が安心する言葉がけを添え公用車を使うよう対応を共有しており、理念に基づき「本人の立場にたつて」ということを推進しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウィルス感染防止対策の観点より今まで通りの地域との繋がりも困難にはなった。しかしながら状況や時期を鑑みながら関わりを継続して下さる方々も多く地域の皆様に助けられての日常であった。	小学校とは年2回ほど福祉学習で往来があり、コロナ禍以前には利用者の楽しみとなるとともに地域の将来を担う子どもたちの介護や福祉の勉強に協力できていました。本年も中学校から職場体験の声がかかりましたが、やはり辞退せざるを得ないと断念しています。	コロナ禍の対応策として、小学校や中学校には「福祉新聞」や「介護の面白話」など、子どもたちの関心を高める内容を職員からプレゼントできたら、なお良いと思います。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当ホームの管理者が地域で行われた認知症理解への勉強会の講師を務めた。その成果もあり個人的な悩みや対応方法を直接ホームへ相談に訪れるケースも見られた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	状況によっては電話や書面でのやり取りで意見交換を行う事もあった。地域としてのコロナ対応を共有しまた、ホームとしての取り組みや取り決めに理解をいただいた。	「できるだけ顔を合わせたい」として運営推進会議を定期開催していますが、管理者が職員の聞き取りも含み2ヶ月の活動内容をまとめることで議事録とする書面開催を2月のみ実施しています。メンバーからは緩やかに再スタートしている地域活動の情報が届いています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	豊田みよしケアネットワークにも参加し必要な情報をいち早く入手出来る体制である。人と人との接触無しに専門的な見地を入手可能な有効な手段となっている。	豊田みよしケアネットワークでは新情報がリアルタイムで入手できるため、運営に大変役立っています。また運営推進会議には毎回地域包括支援センターの出席があり、参加メンバーの悩みや相談の場とすることへの援助が得られ、助けられています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束適正化検討委員会を開催すると共にグループの必須研修項目としても取り上げられている。実際に現場で感じる職員の心の動きに注目し、拘束に繋がり兼ねる原因を明らかにし不必要な拘束が行われない様に努めている。	3ヶ月毎の身体的拘束適正化検討委員会、新採研修、年2回の既存職員と、法で定められた事柄をつつがなく推進しています。勤務年数が長いため職員同士で声をかけあうことができるメリットを最大に活かして、小さな不適切ケアにも注視していきたいとしています。	身体的拘束適正化検討委員会の協議内容は、年2回の研修とは一線を画すという視点で「現場における向上改善点」の協議となることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に必須研修項目として毎年研修を行っている。アンガーマネジメントも学び冷静な対応が可能である。ベテラン職員が揃い利用者様との距離が近い事を言い訳にしてスピーチロック等無意識の拘束や虐待が起きてしまわぬように留意している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度や日常生活自立支援事業を使用されている利用者様も増加しており権利擁護意識の高まりを現場でも感じられるようになってきた。制度の意義と有用性を理解し利用者様の利益を最大限守っていけるように配慮している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービスの特性、利点、欠点を詳細に説明し入居後の不安や疑問が解消出来るように努めている。説明、同意、契約のプロセスを徹底し、サービス利用により不利益を被られることの無いように細心の注意を払っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナウィルス感染防止に於ける観点より面会の制限もあり職員との接触も機会薄れている現状である。内部が見えにくくなった今、施設の回報を作成し利用者様の輝いた姿、笑顔を発信し風通しまで悪くならぬ様に留意している。	「自分が感染源になったら困る」との考えを以て家族は面会が不具合な状況を受け入れてくださっていますが、それでも「今はいいですか？」と電話が入るため、状況に臨機に対応するとともに「稲武の家通信」などで都度現状を伝えていきます。	一昨年まで家族会が年2回実施されてきましたので、ズームや書面回覧(色紙を順次送り廻す)などで皆の思いを確認できるとよいと思います。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行う研修会を屋外で行う等の工夫をし職員が現場で感じるリアルな意見を述べられる場の開設を維持している。また本部直通のホットライン案内も事務所に掲示してあり全職員が使用可能となっている。	AA過程という研修プログラムで認識を共有したうえで毎月問題点や不安な事を確認しあうとともに、3ユニットをそれぞれまとめる存在であるリーダーの会議も支えとなっていて、協力意識や帰属意識は高いものと管理者は自負しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格の取得、就いた役職等により給与が変動する仕組みとなっている。また資格取得に於ける制限もなく社員、パート、アルバイトの身分に関わらず努力をすれば各々が報われるシステムとなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月テーマを掲げて研修会を開催している。日々変化していく様々な情報に触れ、学び、身分や立場に関係なく日々能力の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ外での交流は一部職員による限定的なものとなってしまっている。新たな法制や制度、取り巻く環境の変化等その全てにアンテナを張り利用者様の利益に最大限繋げていく体制の構築が課題でもある。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	何気ない会話の中で発せられる本当の想いを汲み取れる様に努めている。傾聴や言葉の精査のみならず表情やしぐさにも気配り、目配りし内包された真のニーズの把握にも努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居への不安、入居させてしまう事への葛藤を抱え迷いを持たれている御家族様も多い。まず頑張ってこられた現状を肯定したうえで今後の生活への相談を行っている。また入居後に活きいきとした姿を見ていただける様にも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状のみならず今後の人生について御本人様、御家族様双方の想いを反映出来る様に努めている。その場しのぎのサービス導入ではなく今後の想いにも寄り添える様なサービスの決定を意識している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アットホームな雰囲気の中で利用者様も委縮や遠慮することなく生活されているように感じられる。近い距離感の中でも専門職として守られるべき一線を越えてしまわぬよう常に意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や外出の制限等、ホームの感染防止対策やその指針にご理解とご協力をいただいている現状である。コロナワクチン予防接種に関しても御家族様の協力を仰ぎ迅速且つスムーズに終える事ができた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	この様な状況下であっても医師、理容師、食材の配達等生活に必要な不可欠な支援は地域の方々の尽力により継続されている。入館を避けていただき御不便や御迷惑を顧みずに支援をいただき変わらぬ生活が可能となっている。	コーヒーを毎日飲んでいた人はおやつときのドリンクとして提供しています。菊の水やりが日課だった人は菊栽培の仲間が届けてくださった苗を丹精込めて育て大輪の花を咲かせています。菊は手をかければかけるほど美しく咲くと言われており、賞賛の声に本人も自慢げです。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤独防止を大義に支援が画一的で一方的な干渉になってしまわぬ様に留意している。各々が独立された一人の人間であり個々の特性があって然るべきである事を常に念頭に置くようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後の関わりについては当方より積極的に行動出来ていないのが実情である。相談があった際はグループ運営の利点を活かし必要に応じたサービスの選択肢を提案している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、同じ時間を過ごす中で個々の思いや意向を把握、共有出来る様に努めている。施設としての日課の中にも各々の決定や嗜好が反映される毎日となるように配慮している。	夕食後から就寝時間ののんびりとした時間帯にリビングで座談会のようなことが自然に始まります。業務に位置づけられたものでもルーティンでないものの「聞く」時間、「話す」時間がとれていることで、利用者の状態にも好影響があるものと見込まれています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人様、御家族様より得られた断片的な情報のみで物事を判断してしまわぬ様に留意している。情報を基に肉付けを行い、その時折に御本人様が何を考えどのように感じられたかを重要視している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	散歩、外気浴、裁縫、歌唱、調理補助等々が楽しいと感じられる時間を大切にしている。状況や状態の変化にも留意し一方的な思い込みや決めつけで無理強いになってしまわぬ様にも日々目配りしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本的にはカンファレンスに御本人様にも参加をお願いし想いを述べて頂いている。御家族様の想いも事前に確認し双方の想いを尊重しながら未来を描き前向きな決定が可能となるように努めている。	本年度の法改正に乗じて計画作成担当者兼介護支援専門員が3ユニット全ての介護計画書を取りまとめる体制に変容しています。全体をみることができ、他のユニットの伝令と共有も確実となって視野も広がった感があり、今のところ「やってよかった」に結ばれています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、出来事、印象に残った言動が毎日個別に記録されている。出勤時には全職員が目を通し情報の共有がなされている。既出の情報をより掘り下げ介護計画が個々の思いやニーズに沿ったものとなるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナウィルス感染拡大の余波もあり、利用者様、御家族様共に多大な我慢を強いることになった。リモート面会やテレビ電話等新たなサービスの導入も検討したが諸事情あり実施することが叶わなかった。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	厳しい状況下に於いても地域の方々には変わらぬ支援をいただいた。「こういう施設は本当に大変だねえ」と励ましと労いの言葉もいただき地域の一員としての存在を実感した。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地元に協力医が2名見え定期診療、訪問診療、往診、看取り等、必要に応じた対応をして頂いている。入居者様のほとんどが入居以前よりの主治医であり病状以外の情報にも精通されている。長期的な情報の蓄積もあり安心出来る医療体制が実現出来ている。	月1回、月2回と回数は異なるも、訪問診療を実施くださる協力医が2箇所あり、本人・家族の意向のもと選択してもらっています。小さな地区のため馴染みの医師であることが大半で、既往歴を熟知するとともに長い経過観察もあって家族のみならず事業所も安心です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師も職員として勤務している。介護現場では不足しがちな医療的な視点での判断や処置が可能となっている。医療と介護をスムーズに繋ぐ役割を担っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病院(医師、看護師、相談員)、御家族様、施設の三者で最新の情報、予測される予後等を共有し退院後の安心した生活に繋げられるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、全員に看取りについての説明を行っている。協力医2名にも看取り対応への協力を快諾を頂いている。病院への入院、治療の一択ではなく住み慣れたホームを終の棲家と捉える選択肢も提案している。	昨年11月に1名の看取りがありました。高齢で終末期が短いことはコロナ禍のなか幸いでもあり、家族は集中して最後のお別れに尽すことができました。穏やかにお見送りできたことで職員間に一種感動も湧き、家族と医師の協力を得ている経験となっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応をテーマに職員間で研修を行い判断基準や対応について話し合い疑問点や不安点を解消する事が出来た。実際にホームで起きた事故を事例として取り上げ緊張感を持ち臨む事が出来た。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	計画を立て自然災害時、火災時の避難訓練を行っている。避難確保計画に基き避難経路、場所、方法を明確化している。実際に職員が避難場所に赴き情報収集を行い避難所での生活もイメージが具現化されている。	防災計画に基づき年2回の法定訓練を遵守するとともに回数を増やして総計7回程実施、土砂災害区域に入っていることもあって避難誘導に力を入れています。備蓄は消費期限の入れ替えも本部管理ですが、オール電化のためボンベは事業所で供えています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性別、性格、生活歴等その方を形成する全ての要素に目を向け対応出来る様に努めている。経験豊富な職員が多い故に過去の類似例にあてはめ、決めつけ、個を失ってしまわぬ様に意識している。	長い勤務の職員がいることで信頼と安心が大きいものの「なれ合いの空気感が生れることは抑えたい」として管理者は注視するとともに、年2回職員アンケートをとり見直しています。大抵の場合は利用者と年齢が近いことで物の見方や言葉が近く、状況は良好です。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛け(説明)、同意(納得)、行動のプロセスを重要視している。守るべき一線を意識しながら介護者、要介護者以上の関係性の構築に努めている。		x
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩、裁縫、塗り絵、読書、昼寝等皆様気まますまに生活して見える。取り組まれる事に対して、さりげなくフォローしつつ笑顔で声掛けを行い自由に過ごせる環境、空間作りに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今迄着てこられた服を継続して着用していただいている。起床後、入浴後の整容等も個々の状態に合わせて御本人様の納得が得られるように意識している。化粧や肌の手入れをしたり、アクセサリー、時計を身に付けたりと各々の意思や趣向で過ごされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	咀嚼、嚥下等状態に合わせた形態の提供にて全ての入居者様が食事を楽しめる様に工夫している。朴葉寿司や五平餅等の伝統食もメニューに取り入れ準備段階より皆で準備を行いより一層の美味しさを感じられるように意識している。	飲み込みがわるくなくても、何を食べたかわからないのでは忍びなく、形や色も楽しんでもらうことも食の一環としています。「鮎の塩焼きも最初から刻むと寂しい、あとから刻もうか」としたところ、かぶりつく人もいて驚きと飲びの二重奏に突っ込んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の通常摂取量を把握、記録し変化を見逃さぬ様に努めている。変化を認めた場合は医師とも連携し栄養のバランスを維持できる様に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後全員が口腔ケアを行う環境となっている。口腔ケアの持つ健康維持への重大な意義を職員は理解し入居者様にも周知している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムとパターンを把握しながら、各々の意思に反した画一的な誘導を行ってしまわぬ様に意識している。個々のADL、希望も考慮しながらポータブルトイレ等の使用も取り入れ安全、安楽に排泄行為が可能となるように努めている。	「入居したばかりだと場所がわからない」ということがあり、放尿につながりやすくなってしまいますが、職員の目配り、気配りと連携で未然に防いでいます。転倒骨折で入院、戻ってきたら2人介助となってしまった利用者も「立位が保てれば」と、現在職員ともども奮闘中です。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	全入居者様にチェック表を作成し排便のリズムや量をリアルタイムに把握、確認している。便薬服用に難色を示される方にはしっかりと説明を行い安心を前提に便秘の解消を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	二日に一度は入浴が可能な体制となっている。入浴前に意思の確認、バイタルチェックを行い気持ちよく安全な入浴となるように努めている。湯の温度、入浴時間も好みに設定し単に清潔保持の為の行為となってしまわぬ様に留意している。	タイル仕立てで旅館のお風呂のように大きな浴槽に姉妹仲良く入る姿は、当事業所ならではの光景です。偶然同じユニットとなり、口喧嘩しながらも一人を誘うと「わたしも入る」と言ってお互いを頼りにする様子を微笑ましく職員が見守っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リズムある生活、適度な運動、精神の平穩、日々の満足感、搔痒感の解消等様々な要素が安眠に繋がる事を職員は理解し意識を持って業務に就いている。全室個室となりおり消灯時間の設定等の制約も設けていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々にファイルが作成されており既往歴、処方箋、検査結果等が網羅出来るようになっていいる。また誤薬防止の意識も高く薬のセッティングから服用に至るまで複数職員により何重ものチェックが行われる仕組みとなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今まで担って来られた役割りを特別な形ではなく生活の中の一場面として行っていただけに努めている。コーヒーやコーラ等を個々の好みで嗜んだり他館まで自由に赴き気の合う方とお話をしたりと個人単位でも楽しみごとのある生活となるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍での生活となり施設としての外出は減少しているのが実情である。御家族様も現在の状況を鑑みて外出をあえて控えて下さっている。外部との接触を避けながら桜や紅葉を車から楽しんだり、施設内で夏祭りを開催したりと楽しみを失ってしまわぬ様に努めている。	人気のないところを訪れたり、降りないドライブなどの工夫を以て例年通り春秋のドライブ遠足を実現させています。また庭先で炭を焚いて五平餅を100本近く焼く恒例行事も内々で開催でき、本年のトピックスは道の駅の鮎の塩焼き(テイクアウト)をそれぞれが1本完食できたことです。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本的に施設が行っているが財布(金銭)が手元に無いと不安を感じられる利用者様も見える。御家族様とも相談のうえ御自身に管理を任せているケースもある。希望に応じて欲しい物を購入して頂き入居前と遜色ない生活が送れる様に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナウィルス感染拡大により外部との電話、手紙でのやり取りは増加してきた。誕生日や母の日、父の日等に荷物が届く事も多い。すぐに御本人様にお渡しし御礼の電話を繋ぐ機会も増えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の作品、皆で協力して出来上がった作品、楽しかった思い出の写真等が季節、行事に応じてホールに展示、掲示してあり温かみのある空間となっている。定期的な換気も行い利用者様にとって居心地よく安全な空間になっている。	企画係が行事のデコレーションや写真掲示を担当、今はツリーがシーズンの顔として鎮座してユニットを見守っています。オゾン発生器やハンドドライヤーも新たに導入され、1日3回の掃除や手指の消毒、外にでるときはマスクとルールを徹底してウイズコロナを実践しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間内には居場所、移動に制限は一切設けていない。テレビを観たり、本を読んだり、こたつで団欒したり、気の合う方の近くに移動し話をしたりと思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に御家族様にもリロケーションタメーンについての説明を行い、古くても愛着のある品々に囲まれて暮らす意義の大きさを理解して頂いている。筆筒、テレビ、神棚、写真立て等出来る限り自由に配置していただき習慣や思い出を大切にしながら生活していただいている。	2名が神棚を持ち込み、1名は拝んでもいます。櫛は作りもののため職員のフォローはほとんど必要ありません。大半の居室にはテレビがあり、寝る前に鑑賞しています。朴葉寿司をつくったとき「家で作ってあげたい」と、暫く自室に朴葉を保管していた利用者もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内は完全バリアフリー構造となっており移動手段を問わず制約のない行動が可能となっている。自室や所属ユニット内は勿論の事、他ユニットや屋外にも自由に入出入りされる様子が見られる。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2376200172		
法人名	平成フードサプライ株式会社		
事業所名	グループホーム稲武の家(2号館)		
所在地	愛知県豊田市黒田町一色310番地		
自己評価作成日	令和3年11月20日	評価結果市町村受理日	令和4年1月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2018_022_kanistrue&ijvsvocd=2376200172-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室
所在地	愛知県新城市黒田字大岡132番地2
訪問調査日	令和3年12月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな環境もあり、ゆったりとした空気の中で疑似家族としての生活を送れている。勤続10年以上の職員が大半を占め、落ち着いた雰囲気も保たれている。入居者様のほとんどが稲武及び近辺に長年暮らされており地元で根付いた生活をしてこられている。医師、理容師、ボランティアの方々等関係するほとんどの方々が入居者様が入居以前より関係を持たれており現在も貴重な地域の資源となっている。広々とした敷地内で、五平餅、朴葉寿司、からすみ作り等の郷土食を皆で作って食べたりと施設での暮らしが自宅での暮らしの延長となるように日々心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

息子や娘が学びや働き口を求めて地元から離れ、独居となって家族も離れた場所に住むという人もいる山間の地域では、職員が家族のような存在です。「夫婦は一緒にできやいかん」として妻の入所を心配して毎日硝子越しの面会に訪れている愛妻家の伴侶がいる一方で、「100歳まで頑張る」と奮起する99歳の利用者もいます。コロナ禍で外出できず、たこ焼きやかき氷のみの縮小夏祭りや、近くの食事処のお弁当にも飲んでくださり、鮎の塩焼き、朴葉寿司や五平餅などの稲武の郷土料理で昔話に花も咲き、家宅で暮らすような賑わいと和やかさがあり、コロナ禍の喧噪が此処ではうそのようです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム玄関口に理念を常に掲げ職員、利用者様、御家族様の目に留まるようにしている。介護を受けられる方の立場に立つという当然あるべき姿勢や信念を日々、再確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナウィルス感染防止対策の観点より今まで通りの地域との繋がりも困難にはなった。しかしながら状況や時期を鑑みながら関わりを持続してくださる方々も多く地域の皆様に助けられての日常であった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当ホームの管理者が地域で行われた認知症理解への勉強会の講師を務めた。その成果もあり個人的な悩みや対応方法を直接ホームへ相談に訪れるケースも見られた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	状況によっては電話や書面でのやり取りで意見交換を行う事もあった。地域としてのコロナ対応を共有しました、ホームとしての取り組みや取り決めに理解をいただいた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	豊田みよしケアネットワークにも参加し必要な情報をいち早く入手出来る体制である。人と人との接触無しに専門的な見地を入手可能な有効な手段となっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束適正化検討委員会を開催すると共にグループの必須研修項目としても取り上げられている。身体拘束そのものよりも起こり得る原因に着目し、業務の中で事前に原因の目が摘めるように日々意識している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に必須研修項目として毎年研修を行っている。アンガーマネジメントも学び冷静な対応が可能である。ベテラン職員が揃い利用者様との距離が近い事を言い訳にしてスピーチロック等無意識の拘束や虐待が起きてしまわぬように留意している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度や日常生活自立支援事業を使用されている利用者様も増加しており権利擁護意識の高まりを現場でも感じられるようになってきた。制度の意義と有用性を理解し利用者様の利益を最大限守っていけるように配慮している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービスの特性、利点、欠点を詳細に説明し入居後の不安や疑問が解消出来るように努めている。説明、同意、契約のプロセスを徹底し、サービス利用により不利益を被られることの無いように細心の注意を払っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナウィルス感染防止に於ける観点より面会の制限もあり職員との接触機会も薄れている現状である。内部が見えにくくなった今、施設の回報を作成し利用者様の輝いた姿、笑顔を発信し風通しまで悪くならぬ様に留意している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行う研修会を屋外で行う等の工夫をし職員が現場で感じるリアルな意見を述べられる場の開設を維持している。また本部直通のホットライン案内も事務所に掲示してあり全職員が使用可能となっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格の取得、就いた役職等により給与が変動する仕組みとなっている。また資格取得に於ける制限もなく社員、パート、アルバイトの身分に関わらず努力をすれば各々が報われるシステムとなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月テーマを掲げて研修会を開催している。日々変化していく様々な情報に触れ、学び、身分や立場に関係なく日々能力の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ外での交流は一部職員による限定的なものとなってしまっている。新たな法制や制度、取り巻く環境の変化等その全てにアンテナを張り利用者様の利益に最大限繋げていく体制の構築が課題でもある。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	何気ない会話の中で発せられる本当の想いを情報化し職員全体で共有している。傾聴や言葉の精査のみならず表情やしぐさにも気配り、目配りし本人の気持ちに寄り添う様になっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居への不安、入居させてしまう事への葛藤を抱え迷いを持たれている御家族様も多い。まず頑張ってこられた現状を肯定したうえで今後の生活への相談を行っている。また入居後に活きいきとした姿を見ていただける様にも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時には御本人様、御家族様双方の意向を必ず聞き取っている。医療面への対応が必要な場合は主治医の意見も職員で共有している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様と同じ目線での対応を心掛けている。利用者様同士が仲良く共同生活が送れる様に支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や外出の制限等、ホームの感染防止対策やその指針にご理解とご協力をいただいている現状である。コロナワクチン予防接種に関しても御家族様の協力を仰ぎ迅速且つスムーズに終える事ができた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	この様な状況下であっても医師、理容師、食材の配達等生活に必要な不可欠な支援は地域の方々の尽力により継続されている。入館を避けていただき御不便や御迷惑を顧みずに支援をいただき変わらぬ生活が可能となっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤独防止を大義に支援が画一的で一方的な干渉になってしまわぬ様に留意している。各々が独立された一人の人間であり個々の特性があって然るべきである事を常に念頭に置くようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後の関わりについては当方より積極的に行動出来ていないのが実情である。相談があった際はグループ運営の利点を活かし必要に応じたサービスの選択肢を提案している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	支援内容は御本人様の意向や希望を基に作成している。毎日の介護記録の内容も考慮し定期的なモニタリングで支援の見直しや検討を図っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人様、御家族様より得られた断片的な情報のみで物事を判断してしまわぬ様に留意している。情報を基に肉付けを行い、その時折に御本人様が何を考えどのように感じられたかを重要視している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所時や変化を感じた場合は詳細記録を記入し最新の情報を常に職員が共有出来る様に努めている。主治医よりの意見も意識しながら支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の様子を、様々な記録や職員の口から集め支援内容を検討している。趣味、やりたい事、生活歴も加味しながら各々に向けられた介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日支援内容に対する評価を行っている。目標が達成されなかった場合はその理由を重要視し支援計画に反映される様に心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナウィルス感染拡大の余波もあり、利用者様、御家族様共に多大な我慢を強いることになった。リモート面会やテレビ電話等新たなサービスの導入も検討したが諸事情あり実施することが叶わなかった。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナウィルス感染防止の観点よりも不要不急の外出は自粛している。生きる為の地域資源活用は継続されているものの楽しみとしての活用は減少してしまっているのが現状である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地元で協力医が2名見え定期診療、訪問診療、往診、看取り等、必要に応じた対応をして頂いている。入居者様のほとんどが入居以前よりの主治医であり病状以外の情報にも精通されている。長期的な情報の蓄積もあり安心出来る医療体制が実現出来ている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師も職員として勤務している。介護現場では不足しがちな医療的な視点での判断や処置が可能となっている。医療と介護をスムーズに繋ぐ役割を担っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病院(医師、看護師、相談員)御家族様、施設の三者で最新の情報、予測される予後等を共有している。望まれるなら継続してホームでの生活が可能となる様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、全員に看取りについての説明を行っている。協力医2名にも看取り対応への協力を快諾を頂いている。病院への入院、治療の一択ではなく住み慣れたホームを終の棲家と捉える選択肢も提案している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応をテーマに職員間で研修を行い判断基準や対応について話し合い疑問点や不安点を解消する事が出来た。実際にホームで起きた事故を事例として取り上げ緊張感を持ち臨む事が出来た。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	計画を立て自然災害時、火災時の避難訓練を行っている。避難確保計画に基き避難経路、場所、方法を明確化している。時間帯を問わず安全が確保出来る様に訓練している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一日のスケジュールに追われ画一的な対応にならない様、常に心掛けている。自己決定による毎日となるように心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	想いや希望を気軽に表出出来る環境作りを職員は意識している。日頃よりの信頼関係の構築により可能となるのもである事も理解している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「やりたい。」、「やりたくない。」が自己決定出来るように心掛けている。その場では希望に沿えないケースもあるが、全否定ではなく代替案を提示出来るように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みに応じた服装や髪形をして見える。着やすさや機能性で施設側が意図したものではなく各々の自由な決定で服を選ばれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	五平餅・朴葉餅等の地元根付いた郷土食を自分で作って食べるという機会も提供している。毎食後の食器拭きも皆様で協力していただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の違いにも目を向けながら毎日摂取量を記録しながら必要量の確保を心掛けている。摂取自体がストレスとならぬ様に嗜好に沿った提供も個々で工夫して行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの大切さを十分理解したうえで、毎食後のケアを個々の状態に合わせてケアを実施している。又、義歯の消毒も定期的に行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターン、リズムを把握しながら声掛け、誘導、介助を行っている。ADLの変化に気を配りながら自立した排泄が可能であり続ける様に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬にのみ頼るのではなく便秘予防の一環として毎日のヨーグルト摂取や運動、体操等もしている。個々にチェック表を作成し必要な対応が後手を踏まぬ様に意識している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日おきに入浴出来る様に支援を行っている。事前に体調を確認のうえ「入る。」「入らない。」の意思確認を行い安全で気持ちのよい入浴となるように努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の様子や状態、変化を常に把握し無理のない生活が送れる様に配慮している。精神的な平穏が安眠に繋がる事も常に意識している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々にファイルが作成されており、処方された薬が誰でもいつでもチェック出来る体制を取っている。服用薬把握により個々の生活の中に内包された危険性を認識出来るように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事に目を向けるだけでなく、「まだまだ出来る」という気持ちを大切にしている。役割を果たす充実感が生活の楽しさにも繋がる事を理解している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の現在、不要不急の外出は制限されている現状である。外部との接触を避けながら桜や紅葉を車から楽しんだり、施設内で夏祭りを開催したりと楽しみの全てを失ってしまわぬ様に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設の管理となっている。物品の購入に於いては、御家族様とも相談のうえ御本人様が所望される生活が送れる様に心掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナウィルス感染拡大により外部との電話、手紙でのやり取りは増加してきた。誕生日や母の日、父の日等に荷物が届く事も多い。すぐに御本人様にお渡しし御礼の電話を繋ぐ機会も増えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花瓶には季節を感じられる生花や造花が活けられており、行事等の写真、季節事に貼りがえられる習字作品も掲示してる。定期的な換気も行い利用者様にとって居心地よく安全な空間になっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間での過ごし方には制約を設けていない。自由に移動し、自由に過ごされている。人間関係を考慮した席の配置も考え気持ちよく過ごせる様に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはなるべく自宅で使用していた愛着のある物を持参していただく様をお願いしている。動線には配慮しながらも、自宅に近い環境作りに努め安心して暮らしていける場所となるように支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	完全バリアフリーとなっており、車椅子、シルバーカー等移動手段による行動の制約はない。トイレや浴室等の場所も読み取れる様に大きな字で案内があり自立支援に繋がられるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2376200172		
法人名	平成フードサプライ株式会社		
事業所名	グループホーム稲武の家 (3号館)		
所在地	愛知県豊田市黒田町一色310番地		
自己評価作成日	令和3年11月20日	評価結果市町村受理日	令和4年1月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kanistrue&ijvssvoCd=2376200172-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室
所在地	愛知県新城市黒田字大岡132番地2
訪問調査日	令和3年12月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな環境もあり、ゆったりとした空気の中で疑似家族としての生活を送れている。勤続10年以上の職員が大半を占め、落ち着いた雰囲気も保たれている。入居者様のほとんどが稲武及び近辺に長年暮らされており地元で根付いた生活をしてもらっている。医師、理容師、ボランティアの方々等関係するほとんどの方々が入居者様が入居以前より関係を持たれており現在も貴重な地域の資源となっている。広々とした敷地内で、五平餅、朴葉寿司、からすみ作り等の郷土食を皆で作って食べたりと施設での暮らしが自宅での暮らしの延長となるように日々心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

息子や娘が学びや働き口を求めて地元から離れ、独居となって家族も離れた場所に住むという人もいる山間の地域では、職員が家族のような存在です。「夫婦は一緒にできやいかん」として妻の入所を心配して毎日硝子越しの面会に訪れている愛妻家の伴侶がいる一方で、「100歳まで頑張る」と奮起する99歳の利用者もいます。コロナ禍で外出できず、たこ焼きやかき氷のみの縮小夏祭りや、近くの食事処のお弁当にも飲んでくださり、鮎の塩焼き、朴葉寿司や五平餅などの稲武の郷土料理で昔話に花も咲き、家宅で暮らすような賑わいと和やかさがあり、コロナ禍の喧噪が此処ではうそのようです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム玄関口に理念を常に掲げ職員、利用者様、御家族様の目に留まるようにしている。介護を受けられる方の立場に立つという職務にあたる以前にまず持つべき人間としての視点を忘れる事の無い様に心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウィルス感染防止対策の観点より今まで通りの地域との繋がりも困難にはなった。しかしながら状況や時期を鑑みながら関わりを持続してくださる方々も多く地域の皆様に助けられての日常であった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当ホームの管理者が地域で行われた認知症理解への勉強会の講師を務めた。その成果もあり個人的な悩みや対応方法を直接ホームへ相談に訪れるケースも見られた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	状況によっては電話や書面でのやり取りで意見交換を行う事もあった。地域としてのコロナ対応を共有しまた、ホームとしての取り組みや取り決めに理解をいただいた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	豊田みよしケアネットワークにも参加し必要な情報をいち早く入手出来る体制である。人と人との接触無しに専門的な見地を入手可能な有効な手段となっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束適正化検討委員会を開催すると共にグループの必須研修項目としても取り上げられている。実際に現場で感じる職員の心の動きに注目し、拘束に繋がり兼ねる原因を明らかにし不必要な拘束が行われない様に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に必須研修項目として毎年研修を行っている。アンガーマネジメントも学び冷静な対応が可能である。ベテラン職員が揃い利用者様との距離が近い事を言い訳にしてスピーチロック等無意識の拘束や虐待が起きてしまわぬように留意している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度や日常生活自立支援事業を使用されている利用者様も増加しており権利擁護意識の高まりを現場でも感じられるようになってきた。制度の意義と有用性を理解し利用者様の利益を最大限守っていけるように配慮している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービスの特性、利点、欠点を詳細に説明し入居後の不安や疑問が解消出来るように努めている。説明、同意、契約のプロセスを徹底し、サービス利用により不利益を被られることの無いように細心の注意を払っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナウィルス感染防止に於ける観点より面会の制限もあり職員との接触も機会薄れている現状である。内部が見えにくくなった今、施設の回報を作成し利用者様の輝いた姿、笑顔を発信し風通しまで悪くならぬ様に留意している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行う研修会を屋外で行う等の工夫をし職員が現場で感じるリアルな意見を述べられる場の開設を維持している。また本部直通のホットライン案内も事務所に掲示してあり全職員が使用可能となっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格の取得、就いた役職等により給与が変動する仕組みとなっている。また資格取得に於ける制限もなく社員、パート、アルバイトの身分に関わらず努力をすれば各々が報われるシステムとなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月テーマを掲げて研修会を開催している。日々変化していく様々な情報に触れ、学び、身分や立場に関係なく日々能力の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ外での交流は一部職員による限定的なものとなってしまっている。新たな法制や制度、取り巻く環境の変化等その全てにアンテナを張り利用者様の利益に最大限繋げていく体制の構築が課題でもある。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	何気ない会話の中で発せられるしぐさや表情等からも、本当の想いを汲み取れる様に努めている。会話、傾聴を繰り返し信頼関係の構築を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	抱えてみえる不安が払拭出来る様に努めている。今現在の想い、今後への想いも把握しながらの関係づくりを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人様、御家族様双方の想いを把握するように努めている。その場しのぎのサービス導入ではなく今後の想いにも寄り添える様なサービスの決定を意識している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護者と要介護者という関係性だけの対応をしてしまわない様に心掛けている。個々の人間の集まりであることを常に念頭においている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の影響もあり御家族との接点も少なくなってしまう。電話や手紙で近況を伝えたり、回報の発行を行い元気な姿を見ていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	この様な状況下であっても医師、理容師、食材の配達等生活に必要な不可欠な支援は地域の方々の尽力により継続されている。入館を避けていただき御不便や御迷惑を顧みずに支援をいただき変わらぬ生活が可能となっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や、利用者様同士の相性の把握に努め、各々が穏やかに生活出来る様に気配り、目配りを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後の関わりについては積極的に行動出来ていないのが実情である。相談があった際はグループ運営の利点を活かし必要に応じたサービスの選択肢を提案している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話や、日常生活の一場面で見せられるしぐさや表情、態度からも想いが汲み取れる様に意識している。カンファレンスや介護記録等を利用し職員間での共有も行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にはフェイスシートを作成し生活歴や家族構成が把握出来る様になっている。実生活を通し情報に肉付けが出来る様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の趣味や趣向、得意な事を把握している。意思決定をもとに好きな事をして過ごして頂いているが以前は簡単に出来たことが困難なケースも多い。ADLを鑑みながらさりげなく支援を織り交ぜストレスの軽減を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本的にはカンファレンスに御本人様の参加をお願いしている。想いを率直に述べていただきプランに反映される様に努めている。また事前に御家族の意向も確認し一方的な内容になってしまわぬ様に留意している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録、変化を認めた際の詳細記録等を利用し実践されるケアがニーズに沿ったものとなるように意識している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナウィルス感染拡大の余波もあり、利用者様、御家族様共に多大な我慢を強いることになった。リモート面会やテレビ電話等新たなサービスの導入も検討したが諸事情あり実施することが叶わなかった。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の医師、理容師等はコロナ禍でも変わらぬ支援をして下さった。外部との接触を避けながら桜や紅葉を車の中で楽しんだり、施設内にて夏祭りを開催し皆で楽しめた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地元に協力医が2名見え定期診療、訪問診療、往診、看取り等、必要に応じた対応をして頂いている。入居者様のほとんどが入居以前よりの主治医であり病状以外の情報にも精通されている。長期的な情報の蓄積もあり安心出来る医療体制が実現出来ている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師も職員として勤務している。介護現場では不足しがちな医療的な視点でのアドバイスを得たり、判断や処置が可能となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病院(医師、看護師、相談員)御家族様、施設の三者で最新の情報、予測される予後等を共有し退院後の安心した生活に繋げられるように努めている。今年度は病室への立ち入りも制限され様子の把握も困難だった。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、全員に看取りについての説明を行っている。協力医2名にも看取りへの協力を快諾を頂いている。病院への入院、治療の一択ではなく住み慣れたホームを終の棲家と捉える選択肢も提案している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応をテーマに職員間で研修を行い判断基準や対応について話し合い疑問点や不安点を解消する事が出来た。実際にホームで起きた事故を事例として取り上げ緊張感を持ち臨む事が出来た。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	季節や時期、時間帯等あらゆる場合を想定した避難訓練を定期的実施している。外部との合同訓練が行えなかった事で、より自分達がやなねばと意識が高まった。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりを個として認識し、個に対する視点を失ってしまわぬように意識している。敬意と懇意のバランスに留意しながら業務にあたっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の何気ない会話や、表情から本人の想いを把握するように努めている。また得た情報は職員全員で共有し自己決定を表出しやすい環境作りを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの個性や性格、趣向や嗜好のみでなく、その日、その時の気分も尊重しながら生活を送っていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の趣向や生活スタイルに合わせたファッションで過ごされている。入所の際は今まで着ておられた服をお持ちいただくようお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朴葉寿しや柏餅、五平餅等の伝統食もメニューに取り入れ準備段階より皆で協力し、楽しみとしての食事が提供出来る様に努めている。コロナ禍でもあり職員は個別に食事を摂る体制となっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取量や適量を把握、記録し、様子観察を行い提供形態にも気を配っている。嗜好にも目を向けストレスなく栄養バランスが維持できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に応じながら毎食後口腔ケアを行っている。義歯の洗浄消毒も定期的に行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズムやパターンをチェック表等で把握している。一律の誘導ではなく自らの意思を大切にしながら自立に向けた支援を行っている。状態に合わせた排泄方法を提案し安全、安楽な排泄を可能にしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々にチェック表を作成し排便のリズムや量をリアルタイムに把握、確認している。日頃より便秘予防を意識し水分の摂取やヨーグルトの提供、適度な日中の運動促し等を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	二日に一度は入浴が可能な体制となっている。入浴前に意思の確認、バイタルチェックを行い気持ち良く安全な入浴となるように努めている。状態によってはシャワー浴、清拭での対応も行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リズムのある生活、適度な運動、精神的な安寧が安眠に繋がる事を理解している。就寝、起床時間等も自由に設定していただき、個々のペースで生活出来る事を何より大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりにファイルが作成してあり既往歴、処方箋、検査結果等分かるようになっている。薬のセッティングから服用までチェックが何度もされる体制となっており、誤薬防止への意識も高い。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今まで担ってこられた役割の継続を重要視している。役割りを果たす充実感を感じつつ、社会生活の中の一員である事を認識してもらえるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍での生活となり施設としての外出は減少しているのが実情である外部との接触を避けながら桜や紅葉を車から楽しんだり、施設内で夏祭りを開催したりと楽しみの継続を心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭は施設での管理となっているが希望がある場合は御家族様とも相談しながら個々で柔軟に対応している。コロナ過の現在は、購入したいものがある時は職員が代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人に掛けてきた電話はすぐに取次お話しして頂いている。希望があれば事務所の電話で御家族に掛ける支援も行っている。手紙を出される時は、郵便配達の方が来館時に預かって下さる事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は毎日清掃、消毒、定期的な換気を行い安心して過ごせる空間となっている。思い出の写真や作品も展示しており、落ち着いて過ごせる空間となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間内には居場所、移動に制限は一切設けていない。テレビを観たり、本を読んだり、こたつで団欒したり、気の合う方の近くに移動し話をしたりと思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や御家族と相談し、テレビや写真立て仏壇等、今まで使用していた物を持ち込まれ、ここで生活しているという実感を持って頂く事で落ち着いた生活を送れる工夫をさせて頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内は完全なバリアフリー構造なので車椅子自走される方や、自室やユニットへの移動も見守りながら自由に出来ている。また、施設前はかなり広く、安全に散歩が出来る環境となっている。		